



生徒の姿に焦点を当てた校内研修の実際

今号では、大仙市立大曲中学校における校内研究の実際を紹介しします。なお、通信の中で紹介する資料は、大曲中学校のHPで閲覧することができます。

大曲中学校の概要

校訓：「よく生きよ」

全校生徒753名（28学級）の秋田県で一番大きな学校です。目指す生徒像は、資質・能力の三つの柱で整理されていて、生徒・教職員・地域や保護者と共有しやすくするために、**イメージポスター**（下の写真）を校内に掲示しています。

【目指す生徒像】

- 「よく生きよ」を自ら問い、共に考え、地域のために貢献しようとする生徒 〈学びに向かう人間性等〉
- 自ら課題を設定し、課題解決に向けて、他者と協働（共働）しながら新たな考えを創造しようとする生徒 〈思考力・判断力・表現力〉
- 獲得した知識・技能を実社会や実生活、課題解決に生かすことができる生徒 〈知識・技能〉



生徒会による清掃活動



技術・家庭科授業風景



職場体験学習

校内研究について

①「学習を通して目指す姿」の明示

大曲中学校区には4つの小学校があります。義務教育の9年間で自立した学習者を育てるために、小学校と中学校で身に付ける内容を示し、**児童生徒・教職員・保護者と共有**しています。（資料①）小学校の振り返りを踏まえて、中学校で行う「3つの振り返り」を紹介します。

大曲中学校区での学習を通して目指す姿
問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく、自立した学習者

中学校で	「関わる」ことができる学習者 ・やり取りが2往復以上(A→B→A→B→A→…)になっているか ・形式的なやり取りの回数ではなく、そのやり取りがお互いの新たな気付きにつながっているか ・説得力をもっているか 伝えたという事実にとどまらず、それが実現しているか ・批判的思考(根拠、内容に対して)で関わっているか ・どうして(本当に)そうなのか、偏りはないか ・「一貫性はあるか、つじつまが合っているか」	「3つの振り返り」ができる学習者(問題発見、主体的な問題解決) ①学習(単元)の始まりで 前時までの自分の状況は？ 本時何ができればいいか分っているか？ どんな方法でやればいいのか分っているか？ ②学習(単元)の途中で 自分が分かっていないことは？ みんなが分かっていない(不十分な)ことは？ ③学習(単元)の終わりで これまでの学習を通して自分の考えは？ 身に付いた力は、他のどの場面で生かせるのか？
	「伝える」ことができる学習者 ・自分の発表は届いているか ・適切な語彙、適切な発声(声量、テンポ、強弱) ・影響力をもつ内容か ・相手の考えの、「前通」「賛否」「強化」の機軸になったか	「目・耳・心」セットで聴こう 目 話す人の方をむいて 耳 とで口をはさまず最後まで 心 うなずくなど反応していき 友だちと自分の考えを比べていき

資料①：大曲中学校区での学習を通して目指す姿

〈3つの振り返り〉

- ①本時(単元)の始まりで
 - ・前時までの自分の状況は？
 - ・何ができればいいか？
 - ・どのようにやればいいか？
- ②本時(単元)の途中で
 - ・自分が分かっていないことは？
 - ・みんなが分かっていない(不十分な)ことは？
- ③学習(単元)の終わりで
 - ・学習を通して、自分の変容は？
 - ・身に付いた力は、どの場面で生かせるか？

②「授業改善サイクル」の確立

「秋田の探究型学習」を踏まえた**授業づくり**と「思考の活性化」「深い理解」を実現する**単元（題材）づくり**を軸にして、授業改善サイクルを確立しています。（資料②）

○年度初めに、「大曲中学校としての『見方・考え方』の捉え」を教科部会で共通理解し、**授業の在り方等について協議**する。

○「マイヒストリー」（**生徒の振り返り**）と「PADカード※」（**教師の見取り**）を踏まえて単元（題材）・授業づくりを見直す。

※「PADカード」とは、その時間における **P: passive**（受動的な姿）、**A: active**（能動的な姿）、**D: deep**（学びを深めている姿）という生徒を見取る視点をまとめたカードです。

大曲中学校としての「見方・考え方」の捉え

・生徒に働かせたい「見方・考え方」を、教科部会で共通理解する

「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくり

- ・学習の見直しをもつ
- ・自分の考えをもつ
- ・集団で話し合う
- ・内容や方法を振り返る

「思考の活性化」を促し、「深い理解」を実現する単元（題材）づくり

- ・各教科等の特質に応じた学習過程を通して習得する「知識及び技能」の明確化
- ・知識を他の学習や生活の場面で活用する学習場面の設定

PADカード

- ・その時間における
- Passiveな姿
- Activeな姿
- Deepな姿
- を具体化する

授業改善サイクル

マイヒストリー

- ・生徒の変容
- ・「見方・考え方」の更新と補強

資料②：大曲中学校の「授業改善サイクル」

研究授業の実際

総合的な学習の時間

「ふるさとのよさを知ろう」（1年）

参観者は、「PADカード」の視点を基に、学力層ごとに抽出された生徒の学びの様子を見取ります。（写真①）

P（受動的な姿）

- ・先生の話が聞いている。
- ・質問や疑問がない。
- ・自分の考えをもって活動に参加できていない。
- ・与えられた活動だけで終わっている。 など

A（能動的な姿）

- ・積極的に自分の考えを伝えている。
- ・自分の考えと他の考えを比較検討している。
- ・積極的な意見交流が行われている。 など

D（深く学ぶ姿）

- ・ふるさと大曲のよさや課題を多面的・多角的にとらえることができています。
- ・新たな疑問が生まれたり、授業後も関心や意欲が続いたりしている。 など

抽出された生徒には、参観者がインタビューを行い、「授業の前と後で、何が変わったか。」を聞き取ります。（写真②）

研究協議では、**授業者の想定と実際の生徒の姿にギャップがある点**に焦点を絞って検証が行われました。（写真③）

生徒の姿に着目しています



写真①：学びの様子を見取り



写真②：インタビューの様子



写真③：全教職員が参加する研究協議

資料③ 拡大指導案
（大曲中HPから引用）

授業者の想定

A	A	A	A
A	A	A	P
A	A	A	P
D	A	A	A
D	D	A	P
D	D	A	P
D	D	(D?)	(A?)

最後に行った「単元全体の振り返り」では多くの生徒が「深い学び」の状態に！

萩原指導教諭のつぶやき

大曲中の嵯峨校長先生に、「授業で全教職員が大切にしていることは何ですか。」と尋ねると、

「教師が笑顔で行うこと・教師の発話量を減らすこと・振り返りを行うこと」です。」と答えられました。

発言しやすい雰囲気と時間をつくれれば、**生徒の本音や表情を見取る**ことができます。さらに、振り返りの記述から**生徒の変容を見取る**ことができます。先生方が、生徒と向き合って授業改善を行っている姿がとても印象的でした。



拡大指導案に、参観者が見取った各学力層の生徒の学びの様子をまとめています。

なぜ、教師の想定と異なった姿になったのか、どうしたら能動的に学べるかについて、協議が行われました。学年や教科の壁を越えて、活発な意見交流がなされていました。